

タヌキの生息レポート

皆さんは野生のタヌキを見たことがありますか？タヌキは日没後に活動しているため、観察の機会は多くありません。

一方、タヌキが残した“痕跡”は各地で見つかっています。東由木地区の全公園緑地(81ヶ所)のうち、タヌキの痕跡が記録された公園緑地は17か所にも上りました。

痕跡の数々は、彼らが私たちのすぐそばに暮らしていることを教えてくれます。

『ひとまちみどり由木』が管理する81ヶ所の公園には、多様な動植物が暮らしています。このコーナーでは、管理作業や巡回の折に出会った動植物について、その際に撮影した写真とともに紹介していきます。

日中に行動するタヌキ

雨が降り続いたあとや、あたたかい日には、日中でも姿を見せることがあります。彼らは、私たちが気付くよりも先に人の気配を察知し、注意深くこちらを観察しています。



自動撮影装置が捉えたタヌキ

タヌキの通り道や巣穴の出入口にセンサーカメラを設置しておくと、彼らの行動を観察することができます。似たような生活を送っているアナグマやハクビシンなどもよく写ります。



巣穴

林の中に掘られたアナグマの古巣を利用しています。掻き出された土が塚となり、踏みかためられているのが特徴です。日中や荒天時、タヌキは巣穴の奥深くで過ごしています。



ため糞

タヌキは、決められた場所にまとめて糞をする“ため糞”という習性があります。樹木の種子や昆虫の翅など、糞に含まれる未消化の内容物を調べることで、彼らの食生活を垣間見ることができます。

足あと

畑や湿地、あるいは積雪の後などには、タヌキの足あとが見つかります。足あとにはイヌとそっくりですが、イヌの場合、付近に飼い主の足あととも残されていることがほとんどです。

噛みあと

噛みあとの付いた人工物は、発見しやすい痕跡の一つです。ポロポロになったマヨネーズ容器、犬歯で穴だらけになった植物ラベルなどを見ると、タヌキがイヌと近縁であることも頷けますね。

